

受付	個人質問	第	号
	令和 年 月 日	時	分

一般質問＜個人＞発言通告書

令和6年8月26日

長久手市議会議長 殿

長久手市議会議員 ささせ順子

会議規則第59条第2項の規定により下記のとおり通告します。

	質問事項及び要旨	備考
1	<p>災害対応力の強化について</p> <p>8月8日に宮崎県で震度6弱、マグニチュード7.1の地震が発生し、気象庁から南海トラフ地震の想定震源域に関する「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表された。この臨時情報による「特別な注意の呼びかけ」は15日に終了したが、大規模地震のリスクは依然として高く、政府も日頃からの備えを強く求めている。</p> <p>本市は内陸部に位置するために津波の影響は少ないが、地震動や液状化による建物の倒壊、火災、ライフラインの寸断などのリスクに備える必要がある。被害を最小限に抑えるため、災害対応力の強化について質問をする。</p> <p>(1) 長久手市耐震改修促進計画について</p> <p>ア 旧耐震住宅を所有する市民に対して、耐震改修の重要性をどのように周知しているか。</p> <p>イ 設置が容易で経済的負担が少ない防災ベッドやシェルターの設置費用補助制度の取り組み状況を伺う。</p> <p>(2) 災害発生時に届けられる膨大なSNS情報を、迅速、効率的に分析し、災害対応に生かすことができるよう、AIを使った災害時SNS情報分析のガイドラインを策定しないか。</p> <p>(3) 発災後に各方面からの支援の申し出に対し、円滑に対応するための受援体制を整える必要がある。災害時受援計画の策定状況を伺う。</p>	

	<p>(4) 避難所の体制整備について</p> <p>ア 過去の災害事例では避難所のトイレ不足や衛生管理の不備が大きな問題となっている。衛生環境の悪化が深刻な健康リスクを引き起こす可能性があることから、避難所のトイレの整備計画がどのようなかを伺う。</p> <p>イ 避難所の運営管理に対する女性の参画と、女性向け物資の備蓄の充実について方針を伺う。</p> <p>(5) 避難生活から生活再建まで、被災者一人一人に迅速で切れ目のない支援を提供するための災害ケースマネジメントの導入を検討しないか。</p>	
2	<p>「マイナ保険証」の普及と利用促進について</p> <p>令和6年5月現在、マイナンバーカードは国民の約73.8%が保有しているが、「健康保険証としての利用」は約7.73%にとどまっている。</p> <p>今年の12月2日以降は従来の健康保険証は新規発行されず、マイナンバーカードを保険証として利用することが基本となるが、一部の医療機関での対応や、手続きの解りにくさなどから、制度の移行に不安を感じている市民は少なくない。</p> <p>マイナンバーカードはデジタル社会を構築する上で重要な社会資源の1つであり、「マイナ保険証」として利用することで、患者本人の薬剤や診療のデータに基づくより良い医療が提供される。また、大規模災害時には避難所での管理にも役立つことが実証されている。市民が安心して「マイナ保険証」を利用できるよう、正しい情報を丁寧に発信し、今年12月に向けた広報活動を推進しないか。</p>	
3	<p>認知症を発症しても安心して暮らせるまちづくりについて</p> <p>「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」（以下、「基本法」という）が本年1月1日に施行された。</p> <p>この基本法は、認知症の人が尊厳を持ち、希望を持って生活できるよう、総合的かつ計画的に施策を推進することを目的としている。また、認知症の方やその家族に限らず、すべての国民が人格と個性を尊重し合い、共に支え合う社会を築くことを求めている。</p> <p>本市では、令和6年度から「第9期高齢者福祉・介護保険事業計画」に基づき、地域包括ケアシステムをさらに深化させた地域共生社会の実現を目指しているが、基本法の内容を市民に広く理解してもらうためにどのような取り組</p>	

	<p>みを行っているのか具体的に伺う。</p>	
<p>4</p>	<p>高齢者の活躍推進について</p> <p>我が国は超高齢社会に突入し、平均寿命は男性が約 81 歳、女性が約 87 歳で、定年後も長い人生を送ることになる。</p> <p>老年学を専門とする秋山弘子東京大学名誉教授によれば、これまでは「健康寿命」が強調されてきたが、今後は若々しく社会参加できる「貢献寿命」を延ばす時代であると提唱されている。</p> <p>就労やボランティア活動は、社会や地域に貢献するとともに生活に張り合いが生まれる。また、生涯学習や健康づくりも生き生きと暮らすためには重要であり、多くの高齢者が一歩を踏み出せるように後押しする相談窓口や活動拠点等の整備も必要だと考える。</p> <p>健康寿命・貢献寿命が延びると共生社会の支え手と支えられる側の比率が改善される可能性が高まることから、高齢者の活躍を推進するための取り組みについて、市の現状と課題を伺う。</p>	